



東筑摩塩尻校長会会長 小松 亨

「ひとりを大切にする」ということ



第138号
発行者
東筑摩塩尻教育会
編集者
会誌会報委員会

コロナ禍は三年目。師走に向かう今、第八波がかつてないほどに学校現場を襲っています。この三年間、学校は様々な対応を求められ、大きな変革を起こしてきました。ICTの利活用はその最たるものでしょ。コロナ前には想像もできなかつたほどに学校は変わりました。しかし一方で、不登校児童生徒は過去最多となり、発達障害と判断を受けた児童生徒も過去最多になりました。

予測困難な時代、多様性を包み込み、

誰もが安心していられる学校をつくるために、私たちに求められているのは、確かな「子ども理解」ではないでしょうか。「令和の日本型学校教育」の構築を目指す今、「昭和」の時代に教師になつた私が思うことは、「子どもを大切にする」という教師が最も大事にしなくてはいけないことしさえ、随分変わってきたということです。

以前は、より多くの子どもが楽しいと思えたり、達成感を味わったり、生き生きと活躍することを目指していました。そのため、学級の和を重んじ、みんなが一齊にひとつのことに向かって一生懸命取り組んできました。もちろん、それは今でも変わらず、大切にしていることですし、大目にしなくてはいけないことがあります。

しかし、振り返ると特別支援教育の理解と共に、それが大きな間違いであったことに気づきました。様々な教育活動からこぼれてしまう子どもは必ずいます。こうすべきだということができない子どももいます。当たり前が当たり前でない子もいます。そういう子どもの存在を想定し、否定せず、決して思いを押しつけず、その子にとつてどうすることがいいことなのかを「チーム」で悩むことだと思います。悩みながらも決して見捨てず、多くの子が・」「みんなが揃つて・」では、何が変わってきたか。それは、「よ

と願う時に、その波に乗れなかつたり、それがストレスに感じたりする子が必要いるということを認識するようになつたことだと思います。そして、それを決して否定しないということです。

例えると、「みんな仲良くしよう」と当然のこととして願うのですが、「みんなが仲良くできるわけがない」とも想定し、仲良くできない子を否定するではなく、その背景や特性を探り、その子に寄り添つていこうと考えるようになつてきたことです。それは、特別支援教育が大きく変わり、学校教育の中核となつてきた時代の流れと合致しています。

私はかつて学級担任として、子どもに対する願いを強く持ち、理想とする姿に近づくよう、思いをぶつけてきました。そして、そこからこぼれてしまふ子どもには叱咤激励し、時に説教、叱責し、すなわちこぼれてしまうことを否定して、「変えよう」と取り組みました。もちろん、それがその子のためだと思い……。

様々な教育活動があるなかで、ひとりでも適応できない子どもがいたら、その子をどう支援するかだけでなく、その教育活動そのものを見つめ直すことも必要とされているのが今の教育現場でしょう。

学校生活は集団生活であり、画一的に皆が同じ方向を向いて動かなくてはならないことがたくさんあります。みんなが力を合わせて、高みを目指すことも大切なことです。しかし、そこには多くの軋轢や負荷、時に矛盾、そしてストレスを抱える子どもの存在があります。しかし、学校という小社会では、どうしようもできないことがあるのも事実です。だから、私たちは心を痛めます。

けれど、不登校の子、配慮をする子、問題行動を起こす子、教師に異を唱える子、そういう子どもと向き合い、ところに寄り添えば、教師は多くのことを学びます。「ひとりを大切にする」とは、そういうことだと思うし、ひとりを大切にするものが今の学校教育だと私は考えます。

これは、問題行動を起こす子どもに起きているのです。問題行動を起こす子は困っている子です。問題行動を起しながら、周りに助けを求めているのです。

- ・利用がゴールではなく、ICTを使って思考力・表現力・判断力を育していく方向性は常に確認できた。
- 【CT】支援員さんにたくさん授業支援をいただき、担任のスキルアップにつながった。
- 環境の整備・タブレット端末と接続したプリンターを使いやすい場所に移動。
- 職員室に【CT】コーナーの設置（【CT】支援員さんとの連絡ボード）
- ・アカウント一覧の作成
- ・【CT】プラリーグのログイン
- ・情報旬間での積極的利用の機会づくり
- 職員
- ・C4日の積極的な活用（職員連絡・欠席連絡・通知表）
- ・職員会議のZoom開催
- ・音楽会の校内YouTube配信
- ・ICT支援員さんと細かいところまで打ち合わせができた。
- ・ロイドシンキングツールを使った授業構想メモ（ミニ指導案）づくり

- (4) 展開
 - ・単元名「器械運動 マット運動 倒立」
 - 1 本時案
 - (1) 主眼 マット運動の基本の技を練習してきました生徒が倒立の練習をする場面で、ICT機器を活用して、撮影した自分の試技と、見本の映像を見比べたり、仲間の技を見合って話し合ったりする事を通して、倒立の出来栄えを高めることができる。
 - (2) 本時の位置（全9時間中第5時）
 - 前時… 基本的な技の練習（前転・後転）、倒立のポイントの確認
 - 次時… 倒立前転のポイントの確認、練習。
 - (3) 指導上の留意点
 - ・【CT】機器を使って倒立のポイントを確認する。
 - ・仲間の挑戦を認め、前向きな助言を行うことを大切にする。
 - ・課題に応じた学習の場を設定して、それぞれの場で技の完成度を高める活動を行う。
 - ・マットの配置や補助の方法について確認を行う。
 - ・準備と片付けについて確認
 - ・補助運動について確認

情報教育推進委員会公開授業

保健体育科 学習指導案

塩尻中学校

1 単元名 「器械運動 マット運動 倒立」

1 本時案

- (1) 主眼 マット運動の基本の技を練習してきました生徒が倒立の練習をする場面で、ICT機器を活用して、撮影した自分の試技と、見本の映像を見比べたり、仲間の技を見合って話し合ったりする事を通して、倒立の出来栄えを高めることができる。

- (2) 本時の位置（全9時間中第5時）
 - 前時… 基本的な技の練習（前転・後転）、倒立のポイントの確認
 - 次時… 倒立前転のポイントの確認、練習。
- (3) 指導上の留意点
 - ・【CT】機器を使って倒立のポイントを確認する。
 - ・仲間の挑戦を認め、前向きな助言を行うことを大切にする。
 - ・課題に応じた学習の場を設定して、それぞれの場で技の完成度を高める活動を行う。
 - ・マットの配置や補助の方法について確認を行う。
 - ・準備と片付けについて確認
 - ・補助運動について確認

時間	学習活動と学習内容	指導
1 単元展開	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の流れを確認し、学習の見通しを持つ。 ・10時間目に6つの技を組み合わせて発表を行う。 ・自由演技を構成して、6つのうち1つはバランス系、もう1つは倒立又は倒立前転を必ず入れる。 ○場の設定や安全に授業を行うための確認する。 ○場の設定や安全に授業を行うための決まりについて指導する。 ○けがを予防するための補助運動の行い方を指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆仲間の学習を援助しアドバイスをすることができる。

段落	○学習活動	□【CT】使用場面	△予想される生徒の姿	☆支援・助言評価	時間
【学習課題】	クロームブックを使って、倒立、倒立前転の完成度を高めよう。	○ウォーミングアップ	①肘がまっすぐ伸びている。 ②目線は手と手の間であごを引かないようになる。	④腕、胴体、足が直線になっているか。	7分
○学習課題の確認	○【CT】機器の活用方法や倒立のポイントの確認	○集合・整列・号令	③振り上げ足の膝が伸びているか。背中からマットに着地してしまう、プリッジの状態になってしまふな。	△足が上がりなくて倒立姿勢にならないな。	
○前時に撮影した自分の試技について確認を行う。	○前時に撮影した自分の試技について確認を行ふ。	○学習課題の確認	△足が上がり足の勢いがありすぎて、背中からマットに着地してしまう。	△足のつま先までまっすぐ伸ばすことは難しいな。	

○演技の構成と流れについての確認を行なう	○接転技群／前転／後転／グループの基本的な技能の習得	○接点技群／後転／グループの基本的な技能の習得	○接点技群／後転／グループの基本的な技能の習得	○平均立ち技群・バランス技の習得	○難易度の低い技から段階的な指導を行う
○発表の組み合わせて発表を行う。（6つのうち1つはバランス系、もう1つは倒立又は倒立前転を入れる。）	○発表時の評価のポイントについて確認を行う。（頭から指先まで演技全体の【美】を追究する。）	○発表する技の順番や完成度について仲間と共有する。	○仲間の発表の良さや課題について互いに共有することができる。	○発表に向けて技の美しさや完成度を高める。	○ICT機器の活用方法について指導を行う。
10	○発表の組み合わせて発表を行う。（6つのうち1つはバランス系、もう1つは倒立又は倒立前転を入れる。）	○発表時の評価のポイントについて確認を行う。（頭から指先まで演技全体の【美】を追究する。）	○発表する技の順番や完成度について仲間と共有する。	○仲間の発表の良さや課題について互いに共有することができる。	☆体をマットに順々に接触させて回転するための動き方や回転力を高めるための動き方で、基本的に他の人の動きを滑らかにして回転することができます。
9	○発表の組み合わせて発表を行う。（6つのうち1つはバランス系、もう1つは倒立又は倒立前転を入れる。）	○発表時の評価のポイントについて確認を行う。（頭から指先まで演技全体の【美】を追究する。）	○発表する技の順番や完成度について仲間と共有する。	○仲間の発表の良さや課題について互いに共有することができる。	☆練習場所などの安全を確保して、転倒の動きで回ることができる。
8	○発表の組み合わせて発表を行う。（6つのうち1つはバランス系、もう1つは倒立又は倒立前転を入れる。）	○発表時の評価のポイントについて確認を行う。（頭から指先まで演技全体の【美】を追究する。）	○発表する技の順番や完成度について仲間と共有する。	○仲間の発表の良さや課題について互いに共有することができる。	☆練習場所などの安全を確保して、転倒の動きで回ることができる。
7	○発表の組み合わせて発表を行う。（6つのうち1つはバランス系、もう1つは倒立又は倒立前転を入れる。）	○発表時の評価のポイントについて確認を行う。（頭から指先まで演技全体の【美】を追究する。）	○発表する技の順番や完成度について仲間と共有する。	○仲間の発表の良さや課題について互いに共有することができる。	☆練習場所などの安全を確保して、転倒の動きで回ることができる。
6	○発表の組み合わせて発表を行う。（6つのうち1つはバランス系、もう1つは倒立又は倒立前転を入れる。）	○発表時の評価のポイントについて確認を行う。（頭から指先まで演技全体の【美】を追究する。）	○発表する技の順番や完成度について仲間と共有する。	○仲間の発表の良さや課題について互いに共有することができる。	☆練習場所などの安全を確保して、転倒の動きで回ることができる。
5	○発表の組み合わせて発表を行う。（6つのうち1つはバランス系、もう1つは倒立又は倒立前転を入れる。）	○発表時の評価のポイントについて確認を行う。（頭から指先まで演技全体の【美】を追究する。）	○発表する技の順番や完成度について仲間と共有する。	○仲間の発表の良さや課題について互いに共有することができる。	☆練習場所などの安全を確保して、転倒の動きで回ることができる。
4	○発表の組み合わせて発表を行う。（6つのうち1つはバランス系、もう1つは倒立又は倒立前転を入れる。）	○発表時の評価のポイントについて確認を行う。（頭から指先まで演技全体の【美】を追究する。）	○発表する技の順番や完成度について仲間と共有する。	○仲間の発表の良さや課題について互いに共有することができる。	☆練習場所などの安全を確保して、転倒の動きで回ることができる。
3	○発表の組み合わせて発表を行う。（6つのうち1つはバランス系、もう1つは倒立又は倒立前転を入れる。）	○発表時の評価のポイントについて確認を行う。（頭から指先まで演技全体の【美】を追究する。）	○発表する技の順番や完成度について仲間と共有する。	○仲間の発表の良さや課題について互いに共有することができる。	☆練習場所などの安全を確保して、転倒の動きで回ることができる。
2	○発表の組み合わせて発表を行う。（6つのうち1つはバランス系、もう1つは倒立又は倒立前転を入れる。）	○発表時の評価のポイントについて確認を行う。（頭から指先まで演技全体の【美】を追究する。）	○発表する技の順番や完成度について仲間と共有する。	○仲間の発表の良さや課題について互いに共有することができる。	☆練習場所などの安全を確保して、転倒の動きで回ることができる。

「情報週間」の取り組み

鹽尻西部中學校

目標
「普段の生活の中でタブレット端末の文房具化」「全教員が、一人一台端末を活用した授業に取り組む」

内容



講演会感想・テキストマイニング

「全校モラル教育講演会」の生徒の感想

❖❖❖❖ 编集後記 ❖❖❖❖

学校におけるIC機器の利用については、日々情報が更新され、対応を迫られています。取り組み事例を参考にしつつ、より深い学びを目指して活動していくましよう。原稿を寄せてくださいました先生方、読んでくださった皆様、ありがとうございました。

